日本泌尿器科學會雜誌

第二十八卷 第五號

昭和十四年五月

THE JAPANESE JOURNAL

OF

UROLOGY

VOL. 28, NO 5, MAY, 1939.

原

著

「デセプタル」中外 (Disseptal) ニヨル 男子尿道淋ノ治療成績ニ就テ

慶應義塾大學醫學部皮膚科泌尿器科教室 (泌尿器科主任 北川教授)

教授 醫學博士 北 川 正 惇

助手 東京醫學士 鶴 島 孝

Aus der Dermato-Urologischen Klinik der medizinischen Fakultät der Keio-Gijuku

Universität. (Vorstand; Prof. Dr. M. Kitagawa.)

Behandlung mit Disseptal-Chugai bei Urethritis gonorrhoea.

Von

Prof. Dr. M. Kitagawa und Dr. T. Turusima.

Auf Grund unserer Beobachtungen über die Urethritis gonorrhoea an 33 Fällen, welche der Behandlung mit "Disseptal-Chugai" ausgesetzt wurden, hat man in unserer Urologischen-Abteilung folgende Resultate erzielt;

Das Präparat "Disseptal-Chugai" ist in Zusammensetzung mit dem Uliron identisch. Es wurden in sämtlichen Fällen eine tägliche Dose von 5.0 g. fortlaufend, und oral verabreicht.

Die besten Erfolge betrugen	13	(39%)
gute " "	9	(27%)
keine Erfolge	11	(34%)

In 20 Fällen von acuter Urethritis ist die sichtliche Wirkung 4 (20%), in 8 subacuten 5 (62%), in 6 chronischen 4 (80%).

Bei Fällen, die nach 2-3 Wochen seit dem Befallen zur Behandlung kamen ergaben sich gute Wirkungen. 9 (27%) unter diesen 33 Personen klagten über folgende Nebenerscheinungen: Fiebersteigerung 4, urticarielle Exantheme 3, Frösteln, Schwindel, Appetitmangel und Salzurie.

目 次

<p>I. 緒 言</p> <p>II. 症例並治療方法</p> <p>III. 服用日数</p> <p>III. 服用總量</p> <p>V. 治療成績</p> <p>VI. 發病又ハ再發ヨリ治療開始マデノ日数及</p>	<p style="text-align: center;">治療成績トノ關係</p> <p>VII. 本劑ノ大量療法ト併用療法</p> <p>VIII. 副作用ニ就テ</p> <p>IX. 合併症ニ就テ</p> <p>X. 總 括</p> <p>XI. 結 語</p>
---	---

I. 緒 言

1932年 Domagk 並ニ Mietsch, Klarer 等ノ共同研究ニヨツテ, Prontosil ガ創製セラレ競ツテ臨床的ニ應用シテ, 其ノ效果ガ喧傳セラレ, 更ニ Tréfoüel 等ニヨツテ本劑ノ藥理作用ハ, Sulfonamid 基ニ存スル事ガ明トナツテ以來, 化學療法ニ於ケル白色「プロントジル」 $\text{H}_2\text{N} \bigcirc \text{SO}_2\text{NH}_2$ ハ, 俄ニ重視セラレ, 各國ニ於テ多數ノ同一製劑ガ作製サレ, 臨床的ニモ幾多ノ發表ヲ見ルニ至ツタ。皮膚科方面ニ於テ本劑ハ丹毒, 「フルンケル」, 「カルブンケル」其ノ他球菌性諸疾患ニ著效ヲ奏スル事ハ廣ク一般ニ承認セラレ多數ノ文献ニ徴スルモ明デアルガ, 泌尿器科方面ニ於テモ糞ニ Kloss, Renner ニヨリ尿路球菌性疾患ニ, Linser, Hanck u. Becker 等ニヨリ淋疾ニ應用セラレ其ノ效果ヲ認メラレタ。

本邦ニ於テモ崔, 北川(湊), 土屋, 石津, 其ノ他ノ諸家ニヨツテ様ニ著效アル事ヲ發表セラレ, 特ニ淋疾ニ對スル大量投與ノ結果ニ於テハ恰モ往年ノ微毒ニ對スル「サルバルサン劑」ニモ比スベキ著效ヲ認メラレ淋疾治療ニ一新紀元ヲ畫シタカノ感ガアツタ。

然シ本劑ハ葡萄狀球菌ニ對シテハ效果薄弱ナリト稱セラレ, 猶且ツ相當ナル副作用ガ認メラレ, 此ノ點ニ於テハ何等カノ改善ヲ必要トスル事ガ漸次鮮明トナルニ至ツタ。

1937年 Domagk 等ハ Sulfonamid 基ヲ 2個有スル Diseptal A. ~B. ~C ヲ製作シ, 其ノ内 A 即チ $\text{H}_2\text{N} \bigcirc \text{SO}_2 \text{NH} \bigcirc \text{SO}_2\text{N}(\text{CH}_3)_2$ ハ最モ毒力弱ク人體ニ使用シ得ベク, 更ニ動物實驗ニヨリ連鎖狀球菌, 葡萄狀球菌, 嫌氣性桿菌, 淋菌性諸疾患ニ著效アル事ヲ發表シタ。彼ノ「ウリロン」, 本邦ニ於テハ「ヂセプタール」等ガ之ニ屬スルモノデアル。

扱, Domagk ノ研究以來本劑 (Diseptal A) ノ臨床的應用ノ成績ハ相次イデ發表セラレ, Felke, Scherber u. Domes, Werner, H. Fuhs u. W. Volarsek, Löhe u. R. Wawersig, 等ハ「ウリロン」ニヨリ驚歎ニ値スル治療成績ヲ認メ, 本邦ニ於テモ. 太田, 土屋, 佐藤, 石津

堅山, 池田, 北川, 川島, 田上, 小屋, 金井, 小森, 小林, 赤坂, 田村, 加賀谷, 木根淵, 熊谷等ノ諸氏ニヨリ「ウリロン」或ハ「アルバジル」ニヨル優秀ナル治驗成績ガ發表セラレタ。

余等ハ本年1月以降, 中外新藥商會ヨリ, 「ウリロン」ト組成ヲ同ジクスル Disseptal「中外」ヲ供給セラレ, 尿路疾患々者67例ニ應用シ, 著效ヲ認メ得タガ, 今回ハ其ノ内男子尿道淋ノ33例ニ於ケル治療成績ニ就イテ記載セントスルモノデアル。

Ⅱ. 症例及治療方法

急性症狀ヲ呈スル患者20例, 亞急性ト認メラレルモノ8例, 慢性症狀ノ患者5例デアツテ, 全症例ニ Disseptal「中外」ヲ1日量5瓦トシ, 連續的ニ投與シタ。一括シテ表示スレバ, 第1, 第2, 第3表ノ如シ。表中治療開始後ノ尿所見欄ニ於ケル數字ハ日數ニシテ, 其ノ日ニ於ケル尿所見ヲ表スモノデアル。

第 1 表 急性症狀ヲ呈スル男子尿道淋

番 號	患者	年齢	發病ヨリ 治療開始 マデノ日 數	初診時尿所見			デセプ タル服用		治療開始後			併 用 療 法	副 作 用	判 定
				尿 濁	膿 球	淋 菌	1日 量	總量	尿濁濁	膿球	淋菌			
1	桑○	26	15	(+)	(+)	(+)	5	5	(+)	(+)	(+)	—	—	無效
2	淺○	27	10	(+)	(+)	(+)	5	15	(+)	(+)	(+)	—	—	稍有效
3	卯○	24	4	(+)	(+)	(+)	5	20	不明	(+)	(+)	—	—	無效
4	村○	23	90	(+)	(+)	(+)	5	20	不明	(+)	(+)	—	—	著效
5	佐○	26	17	(+)	(+)	(+)	5	20	(+)	(+)	(+)	—	頭痛, 惡寒	稍有效
6	坂○	34	7	(+)	(+)	(+)	5	25	(±)	(+)	(+)	—	胃 障 碍	稍有效
7	本○	23	3	(+)	(+)	(+)	5	40	(±)	(+)	(+)	—	發熱發疹7日	有效
8	杉○	20	20	(+)	(+)	(+)	5	45	(+)	(±)	(+)	—	—	著效
9	佐○	32	4	(+)	(+)	(+)	5	50	(+)	(+)	(+)	—	發熱發疹9日	無效
10	岩○	31	9	(+)	(+)	(+)	5	50	(+)	(+)	(+)	—	—	無效
11	孝○	36	15	(+)	(+)	(+)	5	50	(+)	(+)	(+)	—	—	著效
12	山○	25	3	(+)	(+)	(+)	5	60	(+)	(+)	(+)	—	—	有效
13	松○	32	5	(+)	(+)	(+)	5	65	(+)	(+)	(+)	—	—	無效
14	鈴○	36	2	(+)	(+)	(+)	5	70	(+)	(+)	(+)	5日目ヨリ洗滌	—	無效
15	當○	25	2	(+)	(+)	(+)	5	70	(+)	(+)	(+)	—	—	無效
16	片○	21	14	(+)	(+)	(+)	5	70	(+)	(+)	(+)	—	—	著效
17	鈴○	35	40	(+)	(+)	(+)	5	75	(+)	(+)	(+)	2日目ヨリ洗滌	頭痛食慾不振	無效
18	吉○	45	5	(+)	(+)	(+)	5	115	(+)	(+)	(+)	—	眩 暈	有效
19	三○	28	7	(+)	(+)	(+)	5	115	(±)	(+)	(+)	—	—	有效
20	山○	23	17	(+)	(+)	(+)	5	235	(+)	(+)	(+)	39日日ヨリ洗滌	—	無效

第 2 表 亞急性症狀ヲ呈スル男子尿道淋

番 號	患者	年齢	發病ヨリ 治療開始 マデノ日 數	初診時尿所見			ジセプ タル服用		治療開始後			併 用 療 法	副 作 用	判 定
				尿 濁	膿 球	淋 菌	1日 量	總量	尿濁濁	膿球	淋菌			
1	兵○	42	90	(+)	(+)	(+)	5	15	(±)	(+)	(+)	—	—	有效
2	清○	29	19	(+)	(+)	(+)	5	25	不明	(+)	(+)	洗 滌 2 回	—	無效
3	神○	22	35	(+)	(+)	(+)	5	40	(+)	(+)	(+)	—	—	著效
4	宮○	51	52	(+)	(+)	(+)	5	40	(±)	(+)	(+)	—	—	無效
5	早○	33	18	(+)	(+)	(+)	5	45	(+)	(+)	(+)	—	—	著效
6	柳○	59	18	(+)	(+)	(+)	5	80	不明	(+)	(+)	—	11日日ヨリ發熱發疹	著效
7	武○	30	20	(+)	(+)	(+)	5	60	(+)	(+)	(+)	—	發熱38℃	著效
8	五○	30	46	(+)	(+)	(+)	5	90	(+)	(±)	(+)	—	鹽 類 尿	著效

第 3 表 慢性症狀ヲ呈スル男子尿道淋

番 號	患 者	年 齡	發病ヨリ 治療開始 マデノ日 數	初診時尿所見			ヂャブタ ール服用		治療開始後			併 用 療 法	副 作 用	判 定
				尿濁	膿球	淋菌	1日 量	總量	尿濁	膿球	淋菌			
1	ハ波○	40	360	(-)	(卅)	(+)	5	30	(-)2	(±)2	(-)2	—	—	著 效
2	小○	30	105	(±)	(卅)	(卅)	5	55	(-)3	(+)3	(-)3	—	—	著 效
3	阿○	35	120	(±)	(卅)	(卅)	5	60	(-)6	(+)13	(-)13	—	—	著 效
4	丸○	29	300	(-)	(卅)	(+)1	5	75	(-)1	(±)1	(-)1	—	—	著 效
5	清○	29	90	(+)	(+)1	(+)1	5	85	(-)5	(+)11	(±)11	3日ヨリ洗滌	—	有 效

Ⅲ. 服 用 日 數

發熱、發疹、其ノ他重篤ナル副作用ヲ來サザル限り、連續投與ヲ行ヒ、其ノ投劑日數ハ最短1日ヨリ、最長47日ニ及ブ。早期ニ淋菌消失シ、著效アリシ13例ニ於テモ、淋糸中ニ猶相當ノ膿球ヲ含ム場合ニハ繼續投與シタ。

33例中17例ハ10日以内、13例ハ20日以内、3例ハ20日以上投與シタ。即チ半数以上ハ10日以内ノ投與デアル。

Ⅳ. 服 用 總 量

全症例ニ1日量5瓦ヲ投與シタル故ニ、其ノ總量ハ5瓦乃至235瓦デアルガ、3例ヲ除キ殆ソド凡テ100瓦(20日間投與)以下デアル。

服用量少量ニテモ著效ヲ奏シタルモノアリ、反對ニ大量ニテモ無效ニ終ツタモノモアツテ、服用總量ト效果トノ關係ハ見出シ難イ。却ツテ效果ノ如何ハ其ノ1日量ノ多少ニ關係スルモノデアルト思惟スル。

Ⅴ. 治 療 成 績

治療結果ヲ著效(2-3日以内、或ハ10日以内ニ自覺症、排膿、淋菌ノ消失ヲ認メタルモノ)、有效(早期ニ自覺症、排膿、尿濁消失シ又ハ著明ニ減少セルモ服用期間中淋菌ヲ認メタルモノ)、無效(服用中尿所見ニ變化ナキモノ)ニ別チ觀察シタ。尙結果ノ判定ハ數回乃至十數回ニ五リ早朝第一排尿ヲ検査シ、誘發試験ニハ「ブージー」挿入法、「ピロカルピン」法ヲ採擇シタ。

治療成績ヲ一括シテ表示スレバ第4表ノ如シ、即チ著效ヲ認メタルモノハ急性症ノ4例(20%)

第 4 表 治療成績

	著 效	有 效	無 效	計
急 性	4(20%)	7(35%)	9(45%)	20
亞急性	5(62.5%)	1(12.5%)	2(25%)	8
慢 性	4(80%)	1(20%)	0	5
計	13(39%)	9(27%)	11(34%)	33

亞急性症ノ5例(62.5%)、慢性症ノ4例(80%)デアル。無效ナリシモノハ急性性淋ニ於テ9例(45%)、亞急性性淋ニテハ2例(25%)、慢性淋ニ於テハ零デアル。之ヲ有効率ヨリ觀察スレバ急性症ニ於テハ11例(55%)亞急性症ニテハ6例(75%)、慢性症ニ於テハ5例(100%)デアツテ亞急性乃至慢性的傾向アル症例程、

其ノ成績ハ良好デアル。感染後日淺キ急性症狀ヲ呈スルモノ程結果ハ不良デアル。表示セル如ク急性症ニ於テ45%ハ無効デアリ慢性症ニ於テハ 100%有效デアル如キハ如實ニ乏ヲ示スモノデアル。以上ノ結果ヲ諸家(H. Fuhs u. W. Volarsek, Loos, 土屋, 佐藤, 北川, 石津, 北川, 川島, 堅山, 池田) ニヨツテ報告セラレタル他ノ Disseptal A 劑特ニ「ウリロン」ニヨル治療成績ト比較スルニ略同様ノ成績ナルコトヲ認メ得タ。

Ⅴ. 發病又ハ再發ヨリ治療開始マデノ日數及治療成績トノ關係

急性症狀ヲ呈スルモノニ於テハ最短2日ヨリ最長90日デアル, 其ノ内1週以内ノモノ10例, 2週以内ノモノ3例, 3週以内ノモノ5例, 4週以上ノモノ2例デアル。

亞急性症狀ヲ呈スルモノデハ最短18日ヨリ最長90日デアルガ, 2週以上3週以内ノモノ4例, 4週以上5週以内ノモノ1例, 5週以上經過セルモノ3例デアル。

慢性症狀ヲ呈スルモノニ於テハ最短 90日デ最長360日ニ及ブ。治療成績トノ關係ヲ表示スレバ第5表ノ如シ。

即チ發病後 1週以内ニ於テ本療法ヲ開始セル10例ニ於テハ有效5(50%)無効5(50%)デ 2週以内ノモノ3例デハ著效, 有效, 無効, 各1例(33%), 3週以内ノ9例デハ著效5(62.5%)有效1(13%)無効3(24.5%)デアル。4週以後ノ11例デハ著效7(64%), 有效, 無効各 2(18%)デ發病後日數ヲ經ルニ順ツテ好成績ノモノ多ク,

第 5 表 發病ヨリ治療開始マデノ期間ト治療成績トノ關係

	1週以内	2週以内	3週以内	4週以上	計
急性	10	3	5	2	10
亞急性			4	4	8
慢性				5	5
計	10	3	9	11	33
著 效	0	1(33%)	5(62.5%)	7(64%)	13(39%)
有 效	5(50%)	1(33%)	1(13%)	2(18%)	9(27%)
無 效	5(50%)	1(33%)	3(24.5%)	2(18%)	11(34%)

2週以上ヲ經過シタモノニ於テ特ニ效果顯著ナルモノガアル。即チ發病後 2—3週ニ於テ治療開始セルモノノ有効率ハ75.5%, 4週以後ノモノデハ82%ニ及ンデキル。斯ノ如キ結果ハ多數ノ學者(Grütz, Felke, Schreus, Fischer, Loos, Scherber, Schubert, Wagner u. Pohlner, Bernhardt, Werner, Lilienthal, 小林, 赤坂 等) ノ「ウリロン」ニヨル治驗成績, 並ニ其ノ意見ト一致スルモノデアツテ, 本劑モ Uliron ト同様ニ淋疾ノ經過ト共ニ次第ニ有効率ヲ増加スルモノト思ハレ, 「ウリロン」ノ有效, 無効ハ適應決定ノ如何ニ關係シ感染後 5—6週以上ヲ經過セルモノニハ 85%ノ效果ガアルト稱スル Stümpke ノ意見ニ賛同スルモノデアル。

然シ感染後日淺キモノニ於テモ第4表ニ示セル如ク著效アルモノアリ, ナホ自覺症, 排膿等早期ニ消失乃至ハ輕減セル症例モ略半數ニ認メラレルガ故ニ, 實際治療ニ當リ, 特ニ急性期ニ於テ局所療法ノ不適ナル際, 他ノ療法ヲ行フヨリモ先ヅ本劑ヲ用フベキデアルト思惟スル。

Ⅶ. 本劑ノ大量療法ト併用法

余等ハ可及的併用療法ヲ癢シ本劑單獨ニ使用セル場合ノ治療作用ニ就イテ觀察シタ。

33例中5例ニ本療法ノ半途ヨリ局所療法ヲ併用シタガ其ノ内4例ハ遂ニ無効デアツテ、1例ニノミ局所の併用療法ノ效果ヲ認メ得タ。

何等併用療法ヲ施行セズ、本劑ノ服用ノミニヨルモ相當數ノ治療例ガ認メラレル故ニ局所療法ヲ行フニ當ツテハ其ノ適應ヲ選定スベキデ從來ノ如ク局所の處置ヲ以ツテ淋疾療法ノ第一義トスル觀念ハ既ニ今日ニ於テハ改メラルベキデアルト思惟スル。

Ⅷ. 副作用ニ就テ

33例ニ於テ9例(27%)ニ何等カノ副作用ヲ認メタ、即チ發熱、發疹3例(9%)、頭痛2例、惡寒、日暈、胃障礙、食慾不振、鹽類尿各1例デアル。發熱發疹ノ3例ヲ除ケバ、何レモ輕症デアツテ發疹、發熱モ服用ヲ中止セルニ何レモ2乃至3日後ニハ消退シ、解熱スルニ至ツタ。

「ウリロン」ノ治驗報告ニ於テ Dölken ハ 370例中47例ノ中毒症例中特ニ視神經炎ヲ重要視シ、Hüllstrung u. Krause ハ下肢麻痺ヲ、T. Putkonnen ハ舌下神經麻痺、Euler, Mergelsburg u. Grümer 等ハ死亡例ヲ報告シ、其ノ他重篤ナル症狀例ヘバ溶血性貧血、「アグラスロチトーゼ」等ヲ來シタ發表ハアルガ、本邦ニ於テハ未ダ2—3ノ「アグラスロチトーゼ」ヲ來シタル報告以外ニ重症例ハ認メラレナイ。土屋、佐藤兩氏ハ白色「プロンジル」劑使用ノ際ニハ47例中28例ニ中毒症狀ヲ認メタガ、「アルバジル」ヲ使用セルニ24例中僅ニ5例ヲ認メタルニ過ギズ、何レモ輕症デアツテ、白色「プロントジル」劑ニ比シ胃障礙ノ僅微ナル點ハ内服ニ好適ナル事ヲ指摘シタ。余等モ亦第28回泌尿器科學會總會ニ於テ、白色「プロントジル」劑ト Disseptal「中外」トノ副作用ヲ比較報告シタガ前者ニ於テハ35例中49例(58%)ニ種々ナル副作用ヲ認メラレ、其ノ内比較的重症デアツタ發熱、發疹13例(15%)ニ比スレバ Disseptal「中外」ニ於ケル副作用發生率ハ遙ニ少數デアツテ此ノ點ヨリ觀察スルモ更ニ大量療法ニ適スルモノデアルト考ヘル。

尙副作用ノ發生ハ投與セル量ニモ關係スルガ更ニ各個人ノ本劑ニ對スル感受性ニ因ル所ガ大デアルト思ハレルガ、然シ余等ノ例ニ於テ33例中本劑ノ使用ニ堪エズト認メラレタルモノハ、發熱、發疹ヲ來シタル3例(9%)ノミデアツテ他ハ何レモ連續投與ヲ行フモ能ク連用ニ堪エ相當ノ效果ヲ擧ゲテキル。患者ノ全身狀態ニ留意シツツ、世間ニ廣ク行ハレル如ク衝擊的ニ投與スレバ、決シテ不慮ノ遇事ヲ來ス事ハナイト考ヘルガ故ニ淋疾ノ治療ニ當ツテハ遲凝逡巡スル事無ク本劑ヲ大量ニ投與スベキデアルト思惟スル。

Ⅸ. 合併症ニ就テ

余等ノ33例ニ於テハ1例ニ副睪丸炎ヲ認メタルモ其ノ他ハ何レモ合併症ヲ認メズ。

本劑ノ效果不十分ナルモノニ於テ其ノ尿所見、勤勞的生活狀態等ヨリ觀テ合併症ノ發生ヲ杞

懼シタルモノニ於テモ本劑服用中ハ遂ニ之ヲ見ナカッタ事ハ興味アル處デアツテ可及的局所療法ヲ行ハナカツタ點モ一因ト考ヘラレルガ、本劑ガ合併症豫防劑トシテモ亦或程度ノ意義ガアルト思考セラレタ。

X 總 括

1. 33例ノ淋疾患者ニ中外新藥商會製 Disseptal「中外」1日量5瓦ヲ特ニ連續投用シ其ノ治療成績ヲ觀察シタ。
2. 本劑ハ淋疾ノ各期ニ有效ナルモ、特ニ發病後2週間以上ヲ經過シタルモノニ良好デ陳舊ナル症例程多數例ニ著效ヲ認メタ。
3. 併用療法、特ニ局所療法ハ其ノ適應ヲ選定シ、第二義的療法トシテ行フベキモノト思惟スル。
4. 本劑ニヨル重篤ナル副作用例ニハ遭遇セズ、他ノ白色「プロントジル」劑ニ比シ副作用ハ僅少デアル。
5. 本劑使用中ハ淋疾ノ合併症ヲ或程度ニ於テ防禦シ得ル。

XI 結 論

本劑ハ尿路菌性疾患、特ニ淋疾ニ對シ「ウリロン」等ト略同様ノ效力ヲ有シ、本劑ニヨル療法ハ從來ノ治療法ニ比シ遙ニ優秀ナルモノデアツテ些少ナル注意ニヨツテ重篤ナル副作用ヲ全ク防避シ得ルモノデアルカラ徒ニ本劑ノ使用ヲ逡巡スル事ナク大量ニ使用シテ可ナルベキモノデアルト考ヘル。

文 献

- 1) **Bernhardt** : Dermat. Wschr. Bd. 107, Nr. 29, 1938. 2) **Domagk** : Deut. Med. Wschr. 61, S. 250, 1935. 3) **Domagk** : Dermat. Wschr. Bd. 107, Nr. 27, 1938. 4) **Dölken** : Dermat. Wschr. Bd. 107, Nr. 44, 1938, 5) **Felke** : Deut. med. Wschr. Nr. 37, 1937. 6) **H. Fuhs u. W. Volarsek** : Dermat. Wschr. Bd. 107, Nr. 36, 1938. 7) **Hüllstrung u. Krause** : Deut. med. Wschr. Nr. 4, 1938. 8) **Klose** : Deut. med. Wschr. Nr. 22, 1936. 9) **Loos** : Dermat. Wschr. Nr. 41, 1938. 10) **Löhe u. R. Wawersig** : Dermat. Wschr. Bd. 107, Nr. 37, 1938. 11) **Samuel, B.** : J. Americ. med. assoc. 1938, 110, 368. 12) **Renner** : Therap. Gegenw. 1936, H. 10, S. 443. 13) **Scherber** : Wiener. med. Wschr. Nr. 11, 13, 14, u. 18, 1935. 14) **Schubert** : Dermat. Wschr. Bd. 107, Nr. 47. 15) **Tréfouél** : Compt. rend. Soc. de Biol. 1935, 120, 756. 16) **Wagner u. Pohling** : Dermat. Wschr. Bd. 107, Nr. 27, 1938. 17) **Werner Lilienthal** : Dermat. Wschr. Bd. 107, Nr. 23, 1938. 18) 石津 俊 : 治療及處方, 10卷, 224號, 112頁, 昭和13年10月. 19) 市川篤次, 篠田倫三 : 體性, 25卷, 5號. 20) 堅山 磐, 池田次男 : 皮膚と泌尿, 第6卷, 第5號, 666頁, 昭和13年12月. 21) 加賀谷順次郎, 木根淵善吉, 熊谷富義 : 北越醫會誌, 53卷, 12號, 1658頁, 昭和13年11月. 22) 北川正惇, 川島甲子雄 : 第28回日本泌尿器科學會總會報告. 23) 北川 潤 : 醫界展望, 193號. 24) 小室秀一郎, 金井 弘, 小森 勇, 床井 恒 : 東京醫誌,

3099號. 昭和13年9月. 25) 小林 豊, 赤坂 裕: 體性, 25卷, 7號, 42頁. 昭和13年7月. 26) 太田正雄: 體性, 25卷, 5號. 27) 崔 在 緯: 臨皮泌, 2卷, 11號, 945頁. 昭和12年11月, 28) 崔 在 緯: 臨泌尿, 3卷, 3號, 206頁. 昭和13年3月. 29) 田上初雄: 醫事公論, 1371號, 昭和13年10月, 30) 田上初雄: 醫事公論, 1372號, 昭和13年11月. 31) 田村 一: 臨床の日本, 6卷, 61號 1213頁, 昭和13年11月. 32) 田村峯雄: 皮科紀要, 30卷, 4號, 297, 昭和13年10月. 33) 土屋文雄: 佐藤正市 體性. 25卷, 10號, 25頁, 昭和13年10月. 34) 土屋文雄, 佐藤正市: 臨皮泌 3卷 12號, 1015頁, 昭和13年12月.